

桐生市教育支援センター 「あぶろーち」

- 開設：平成4年6月8日
(新施設：令和7年1月6日開所)
- 代表者職氏名：所長 須藤 英 隆
- 所在地：〒376-0042 桐生市小曾根町3番30号
- 代表電話：(0277)46-6314
相談電話：(0277)46-6327
- e-mail : kenkyujo@city.kiryu.lg.jp

1 運営の目的

何らかの要因で「不登校」になっている児童生徒を対象に、個別または集団での様々な活動を通して、**心理的安定と自立を第一に**考え、学校復帰・社会復帰を目指した支援・援助を行うことを目的とする。

2 令和6年度職員の構成・分担

所長	1名	総括
副所長	1名	総括補助
所長補佐	1名	渉外、指導全般
指導主事	1名	指導全般
事務補助	1名	庶務
指導員	3名	通所児童生徒への指導
教育相談員	3名	教育相談
SC	1名	教育相談

3 入所対象者及び令和 6 年度受け入れ状況

(1) 入所対象者

市内小・中・義務教育学校に在籍する不登校または不登校傾向の児童生徒で、本人及び保護者が通所を希望し、適切であると認められた者。

(2) 受け入れ状況（令和 6 年度）

1 日 平均 6 ～ 7 名程度

4 令和6年度の開設状況

(1) 開設日時

学校の休業日を除く月曜日～金曜日
9:30～15:00(火は午前のみ)

(2) 開設期間

1学期 4月8日～7月19日(チャレンジ期間 4/8～19、7/5～19)

2学期 9月2日～12月24日(チャレンジ期間 9/2～13、12/11～24)

3学期 1月8日～3月13日(中3生)

1月8日～3月24日(小6生)

1月8日～3月26日(その他)

(チャレンジ期間 1/8～22、3/12～26)

(3) 日時程

時間	主な活動
9:30 ～ 9:55	自主活動・ラジオ体操・朝の学活・生活記録記入
10:00 ～ 10:50	学習Ⅰ
11:00 ～ 11:50	学習Ⅱ
12:00 ～ 13:00	昼食、休憩
13:00 ～ 13:50	学習Ⅲ
14:00 ～ 14:30	自主活動・全体活動・運動・レク等
14:30 ～ 14:40	清掃
14:40 ～ 15:00	帰りの学活

(4) 特色ある活動

子供たちの自己表出の場面を設定し、自主性、対人関係能力、社会性などを高めることをねらいとして、以下のような活動を実施している。

- ①ふれあい活動(年8回)
- ②運動日(年5回)
- ③野外体験学習(年1回)
- ④調理実習(年5回)
- ⑤お別れ会(年度末)



(5) 主な行事（令和6年度）

4月 ふれあい活動①（吾妻公園散策）
運動日①



5月 あぷろーち説明会①
ふれあい活動②（動物園見学）



6月 調理実習①（カレー）



7月 運動日②
調理実習②（手作りピザ）
ふれあい活動③（七夕）
あぷろーち報告会①



9月 運動日③
あぷろーち説明会②



10月 野外体験学習
ふれあい活動④(大川美術館)
ふれあい活動⑤(幼稚園訪問)



11月 ふれあい活動⑥(吾妻山登山)
調理実習③(大根料理)
運動日④



12月 あぷろーち報告会②
調理実習④(クリスマスケーキ)



1月 ふれあい活動⑦(餅つき)
ふれあい活動⑧(和菓子)



2月 運動日⑤(奉仕活動)
あぷろーち報告会③
お別れ会



3月 調理実習⑤(ちらし寿司)



5 学校、家庭及び関係機関との連携

(1) 学校との連携

①定期(毎月)

- 「出席状況等報告書」(教育支援センターから学校へ)と「連絡用紙」(学校から教育支援センターへ)による情報交換
- 教育支援センターだより「めだか通信」の発行

②随時

- あぷろーち説明会(年2回)とあぷろーち報告会(年3回)の実施
- 指導員等が在籍校を訪問しての情報交換(1・2学期末)
- 電話やC4th等での情報提供

円滑な学校復帰や進路指導ができるように配慮している。

(2) 家庭との連携

- 教育支援センターだより「めだか通信」の発行(月1回)
- 教育相談員との定期面談(月1回)
- 送迎時のチャンス相談(随時)
- あぷろーち説明会(年2回)とあぷろーち報告会(年3回)におけるSCを交えた懇談会
- 不登校に関する講演会を開催

日々の活動の様子を積極的に伝え、本人の頑張りを認めてもらっている。同時に、揺れる気持ちや気疲れする心情等を支えてほしい旨を伝え、関わり方や養育上の悩み等とともに考える機会としている。

(3) 関係機関との連携

必要に応じて、子育て相談課や児童相談所等と情報交換を積極的に行っている。

特性をもっている児童生徒の通所や精神的に大きな負担を感じている保護者も増加傾向にある現状を踏まえ、専門的立場からの指導助言を受けるため関係機関との連携強化を図っていく。